

梅雨に備える!

梅雨時期には日照不足が原因で、チッ素過多になりやすく、新梢が伸びて花や実が付かない、病気にかかりやすいなどの様々な弊害が発生します。

梅雨が到来してからでは遅い!
今から十分な心構えと対策が必要です!

【日照不足だとどうなるの?】

チッ素過多

(3大栄養素であるチッ素・リン酸・カリのバランスが崩れる)

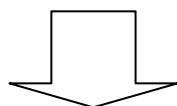
【具体的な弊害】

- 新梢の遅伸
- 果実の肥大不足、着色・糖度が上がらない
- 花ぶるい・生理落果
- 花芽分化の遅れ (翌年に花が咲かない)
- 病気の発生

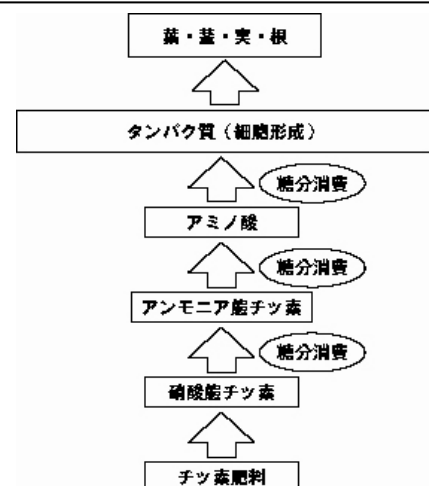


【日照不足時の対策】

過剰になったチッ素を消化させるには光合成を盛んにし、炭水化物(糖分)の生成を増やす!



リン酸 (MリンPK) は光合成の要!
少ない日照量でも光合成ができる。
(ATP: アデノシン三リン酸が光合成を行うためのエネルギー源となります。)



チッ素が作物内で消費される仕組み

【多雨・日照不足時の追肥】

MリンPKで新梢停止!

☆MリンPK 30~40kg(10a当たり)

微生物資材(Mリンカリン)で発酵処理し、「効くリン酸」を実現させた資材。リン酸は光合成を促進し、炭水化物の生成を盛んにします。

炭水化物の生成(=炭素率の向上)は、新梢停止に導きます。新梢が早く止まると、その分の養分が実や花芽に向かい、生理落下や核割れを防止します。また、実の肥大を促進し、糖度や着色を向上させます。



MリンPK

梅雨時期はMリンPKに加えて葉面散布がオススメ!

葉から直接養分を吸収させることによって、土壌施肥より肥効が早く現れ速効的な生育調整が可能となります。特に梅雨の多雨・日照不足時には、根からの吸収力が弱まるため、葉からの養分吸収は大変効果的です。

葉面散布材は葉裏に多くある「気孔」から主に吸収されます。



☆Pフォスタ 500倍液

☆リーフアップV1 500倍液

Pフォスタ

リン酸によって光合成を促進→チッ素を消費(葉枝が硬くなる、新梢の伸びを抑える)糖度・着色の向上

リーフアップV1

有機酸によってチッ素過多を防止・改善すると同時に、害虫が嫌がる酢やアルコール成分が入っています。



Pフォスタ



リーフアップV1

※露地の場合は・・・雨が降った後の朝か夕方に散布し、散布後は3~4時間ほど乾かしてください。

※詳しいご質問は各代理店またはミズホ会本部まで